

# 伊丹ルーテル教会 聖霊降臨後第四主日礼拝 2020年6月28日

## 前奏：

### 招きのことば：詩編 66 編 1-4 節

全地よ、神に向かって喜びの叫びをあげよ。 / 御名の栄光をほめ歌え。栄光に賛美を添えよ。  
神に向かって歌え、

「御業はいかに恐るべきものでしょう。御力は強く、敵はあなたに服します。

全地はあなたに向かってひれ伏し あなたをほめ歌い 御名をほめ歌います」と。〔セラ

### 罪の悔い改めと赦しのことば：

**会衆：**私たちは生まれつき、自分中心、わがままで、心の中に本当の愛のかけらもありません。思いとことばと行いで、まことの神を軽んじて、となりびとにも愛のない、神の御前に罪人です。神様、ほんとうにごめんなさい。私たちは祈ります。私たちを救うため あなたがお与えくださった イエス・キリストによって、どうかあわれんでください。アーメン。（短い黙祷を持ちましょう）

**牧師：**何でもおできになる神様は、あなたのすべての罪を赦すために、そのひとり子、イエス・キリストを十字架の上で死に渡してくださいました。ですから神様の御言葉をとりつぐ務めに任じられた牧師として、今、あなたがたに宣言 します。父と、御子と、聖霊のお名前によって、あなたの罪は赦されました。安心して行きなさい。アーメン。

## 使徒信条

**われは、天地のつくり主、父なる全能の神を信ず。**

**われは、そのひとり子、われらの主、イエス・キリストを信ず。**

主は聖霊によりてやどり、おとめマリヤより生まれ、ポンテオ・ピラトのもとに苦しみを受け、十字架につけられ、死して葬られ、

陰府(よみ)にくだり、三日目によみがえり、天にのぼり、父なる全能の神の右に座したまえり。生ける人と死にたる人とを審かんがため、かしこより再びきたりたまわん。

**我は聖霊を信ず、また、聖なるキリスト教会、すなわち聖徒の交わり、罪のゆるし、からだのよみがえり、かぎりなきいのちを信ず。 アーメン。**

## 祈り

愛とあわれみに満ちておられる私たちの父なる神様、

あなたはイエス様を通して弟子たちを召し、救いの福音を語り、病をいやし、悪霊を追い払う権威をお与えになりました。弟子たちは困難の中であなたにのみ信頼して、私たちにまで福音を伝えてくれました。神様は今も、私たちを福音によって世から召しだし、福音を語るもの、そして語るものを支えるものの使命を与えてくださいます。40年前始められた伊丹ルーテル教会の歩みを、これからも祝福してください。変化の激しい世の中であって、昨日も今日もいつまでもかわることのないイエス様のただしさといつくしみをお伝えしていきます。

新型コロナ・ウィルスの2次感染拡大の心配を持ちながら、私たちは慎重に新しい生活を立てあげようとしています。今朝もあなたのみ言葉によって私たちを教え、新しい命の息吹で力づけてください。今週も、私たちの遣わされている所で、御名のみ栄のために歩ませてください。この祈りを、私たちの救い主であり主であるイエス・キリストのお名前によってお祈りいたします。 **アーメン。**

## 使徒書朗読：ローマ6章12-23節

従って、あなたがたの死ぬべき体を罪に支配させて、体の欲望に従うようなことがあってはなりません。また、あなたがたの五体を不義のための道具として罪に任せてはなりません。かえって、自分自身を死者の中から生き返った者として神に献げ、また、五体を義のための道具として神に献げなさい。なぜなら、罪は、もはや、あなたがたを支配することはないからです。あなたがたは律法の下ではなく、恵みの下にいるのです。では、どうなのか。わたしたちは、律法の下ではなく恵みの下にいるのだから、罪を犯してよいということでしょうか。決してそうではない。知らないのですか。あなたがたは、だれかに奴隷として従えば、その従っている人の奴隷となる。つまり、あなたがたは罪に仕える奴隷となって死に至るか、神に従順に仕える奴隷となって義に至るか、どちらかなのです。しかし、神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、今は伝えられた教えの規範を受け入れ、それに心から従うようになり、罪から解放され、義に仕えるようになりました。あなたがたの肉の弱さを考慮して、分かりやすく説明しているのです。かつて自分の五体を汚れと不法の奴隷として、不法の中に生きていたように、今これを義の奴隷として献げて、聖なる生活を送りなさい。あなたがたは、罪の奴隷であったときは、義に対しては自由の身でした。では、そのころ、どんな実りがありましたか。あなたがたが今では恥ずかしいと思うものです。それらの行き着くところは、死にほかならない。あなたがたは、今は罪から解放されて神の奴隷となり、聖なる生活の実を結んでいます。行き着くところは、永遠の命です。罪が支払う報酬は死です。しかし、神の賜物は、わたしたちの主キリスト・イエスによる永遠の命なのです。

## 福音書朗読：マタイによる福音書10章40-42節

「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は、わたしを遣わされた方を受け入れるのである。預言者を預言者として受け入れる人は、預言者と同じ報いを

受け、正しい者を正しい者として受け入れる人は、正しい者と同じ報いを受ける。はっきり言っておく。わたしの弟子だという理由で、この小さな者の一人に、冷たい水一杯でも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける。」

### 讚美歌：494番

1. わが行(ゆ)く道 いついかに なるべきかは つゆ知らねど 主は御心 成し給わん  
 <繰返し> 備えたもう 主の道を 踏みて行(ゆ)かん 一筋(ひとすじ)に
2. 心猛(たけ)く たゆまざれ 人は変わり 世は移れど 主は御心 成し給わん  
 <繰返し>
3. 荒海(あろうみ)をもうち開き 砂漠(すなはら)にもマナを降らせ 主は御心 成し給わん  
 <繰返し> アーメン

### 説教：「水いっぱいでも飲ませてくれる人」

私たちの父なる神様と御子イエス・キリストから、恵みと平安が豊かにありますように祈りつつ、御言葉をとりつぎます。

私たちは毎週礼拝でイエス様のみ言葉によって安心と活力を受け取って歩んでいます。たくさんの方の失敗、たくさんの方の心配、たくさんの方の課題、たくさんの方の恐れをもつ私たちに、神様は聖書のみ言葉を通して導いてくださいます。信じて洗礼を受けて罪の赦しと新しい命にあずかります。聖餐の恵みによってイエス・キリストが私のための救い主であると確信させていただきます。神様はあなたという存在を大切に思い、すばらしい信仰の仲間を与え、共に豊かに成長させてくださいます。私たちはすべての恐れや心配をお任せすることができ、永遠のいのちの希望が与えられ、また今週の日一日を生きがいをもってはつらつと歩ませていただきます。

今日与えられている聖書の箇所はマタイによる福音書 10章 40-42節です。これは先週末までの続きの箇所です。これまでのあらすじをお話します。10章 1節で、イエス様は12人の弟子を選んで、天の国が近づいたことを宣べ伝えるように権威をさずけました。弟子たちは大切なメッセージを語る使命を担って「イスラエルの失われた羊」、つまり、旧約聖書に親しんできた人々のもとへ遣わされていきます。しかし、皆が弟子たちを喜んで受け入れるわけではありませんでした。弟子たちを捕えて法的処置に訴える人もおり、迫害する人もいることをイエス様は予告されました。10章 5節からのところに記されています。弟子たちは羊ではなく狼の群れのような恐ろしい人々のところに送り込まれたのです。

それでもイエス様は弟子たちに心配しないように、恐れぬようにと前もってお話しされました。10章 16節からです。弟子たちは捕えられて王の前に引き出されるかもしれないので警戒しなければなりません。イエス様のお名前のためにすべての人に憎まれる、とも言われました。

けれどもイエス様はそのこともよいことのために用いてくださいます。弟子たちに心配しないでいなさい、と言われます。そこで弟子たちはどう弁明するか、神様が教えてくださいます。なぜならそれは王や総督や異邦人の前でイエス様のことをお話しするチャンスとなるからです。そして、その町での働きを終えて次の町へ行くきっかけになるからです。2羽で1アサリオンで売られている雀さえ父なる神様はかえりみておられます。弟子たちは確かに雀よりもまさって神様にとって大切な人々です。弟子たちの語る、新しいイエス様の赦しのメッセージは、これまでの常識とは違うメッセージなのでどうしても受け入れることができない人々は騒ぎ立ちます。信頼していた家族からの反対をうけることもあり得ます。けれど人を恐れなくて、神様を恐れていなさい。主イエス様の忍耐にならって、あなたがたも忍耐し主に信頼して歩めば、かえってそれらの人々の信頼を得ることになるからです。

弟子たちはこの大切な働きに任命されて、覚悟をもって出かけていくことになりました。弟子たちにイエス様は、自分の十字架を負ってイエス様のためにいのちを投げ出すと、かえっていのちを得ることになると約束されました。これらのことが10章39節までに記されています。

さて、今日はその続きの10章40節から42節です。イエス様が送りだす弟子たちへの説明の最後をしめくくるところです。ここまでイエス様は多くの人が弟子たちを受け入れず迫害すると予告しました。それでも苦しみと忍耐を覚悟して、神様を恐れ信頼して忠実にイエス様の赦しのメッセージを語りなさい、と言われました。締めくくるにあたって、イエス様は、その弟子たちを受け入れる人もいるという、うれしいことをお話しくさしました。

10章40節をご覧ください。「あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れ、わたしを受け入れる人は私を遣わされた方をうけいれる」と言われました。弟子たちはイエス様に遣わされて福音のメッセージを人々に伝えました。その弟子たちのメッセージを受け入れるということは、弟子たちを遣わしたイエス様を受け入れるということです。イエス様を遣わしたのは父なる神様です。イエス様を父なる神様がお遣わしになったのは、イエス様によって私たちの罪を赦して、新しい命を生きることができるよう願っておられるからです。ということはどうなりますか。弟子たちを受け入れた人は、巡り巡ってこの父なる神様の愛をも受け入れたことになる、とおっしゃるのです。そのような人々が起こされていきます。

弟子たちは自分のことばを語るのではなく、父の霊によって語り、イエス様に遣わされて、イエス様からあずかったことばを語る預言者のような働きをしました。弟子たちは人を恐れず、自分の身に降りかかる災いの心配で押しつぶされることもなく、正しいことを語ります。弟子たちを受け入れる人、つまり、預言者を預言者として、正しいものを正しいものとして、そのまま受け入れる人々がメッセージを聞く人の中から必ず起こされます。その人々は弟子たちと

同じ報いを受けます。罪の赦しと、新しい命を受け、人を恐れなくて神様を恐れる信仰を得るのです。

伊丹ルーテル教会でこれまで40年間語られてきたのは、弟子たちが語ったイエス様の御救いのメッセージです。説教者はここで、自分も受けた神様の祝福のメッセージを、人を恐れず、時には苦しみに耐えながら語ってきました。語られたみ言葉を受け入れた人々には、同じ祝福が与えられました。預言者や正しいものを受け入れた人が同じ報いを受けるという約束が伊丹教会でも成就されてきました。今日もそのことが今、ここで起こっています。

弟子たちが遣わされていった世界は、私たちが生きている世界と同じです。私たちは神様を見失い、神様がいないかさえ感覚的にも理性的にも確信を持ってない、神様から離れた状態で生まれ、また生きています。神様との交わりを喜ぶ経験もなく、すべてが不確実のなかで、正しくない人々の多い世にあって生きています。頼れるのは自分の努力と得体の知れない運だけです。しかし、神様は私たちが求めておられます。ご自分から離れた人類のもとに御子イエス・キリストを送り、その死によって私たちの罪を赦し、その復活によって私たちに神の子としての命を与えられるのです。弟子たちは自分も受けたこのメッセージを、遣わされた町々、村々で広めました。

後に弟子たちは、イエス様から教えられたことを聖書として書きとめました。イエス様のメッセージを語り告げるのは世の終わりまで続く働きだからです。弟子たちは神様が「収穫の主」として送ってくださる人々を慎重に整えて、町々に牧師として立てていきました。牧師や働き人となる人を教え育てるしくみも整えました。世の終わりまで続く働きだからです。

弟子たちを受け入れてイエス様を受け入れた人は、自分を造ってくださった父なる神様を受け入れたのです。神様のもとに帰り、安らぎをいただいはじめて、自分が何者なのかを知ります。与えられた命は、自分のためにではなく、神様と人々のために生きる意欲が自然にみなぎります。み言葉を語る働き人として歩む中で出会う試練や苦しみは、罰や不幸ではありません。実際に家族や人々の無理解、社会的、経済的不自由さや見通しのなさや大きな責任からくる心労、思いがけない悲しい出来事、霊的な疑いや試練、表には出さないいろいろな苦しみがあります。しかし、それらは人を恐れず、神様だけを恐れる人としてもだえ成長する現場です。働き人は祈りの声をあげながら、現実に向き合って、強められて歩み抜いていきます。

イエス様は人を用いられます。神様は私たちの救いのために聖書を与えてくださいました。また、洗礼には水を用いること、聖餐にはパンと葡萄酒を用いることを設定してくださいました。それだけではなく、弟子を選ばれ、権威を与えました。それは、彼らが聖書の教えを伝え、父水で洗礼をさづけ、パンと葡萄酒をイエス様のからだとして配餐するためです。そこに弟

子たちの人生があります。そこに家族がかかわっています。そこに日々の生活があります。そのような生身の人間を招いて弟子とし、この働きにたずさわるように導かれます。

弟子は「天の国は近づいた」というニュースを伝えるだけの単なる伝令ではありません。彼らの全生涯、全存在がイエス様の御手の中で用いられます。弟子たちはまず自分自身が罪の赦しによって安らぎ、そして与えられた使命のために試練をいとわず神様だけを信頼して歩みます。これは牧師や働き人に受け継がれている姿です。使命は大きく、毎日は厳しいですが、それは主の導きによって霊肉共に強められて歩むすばらしい人生です。

10章42節をご覧ください。イエス様は弟子たちを偉大な人とは呼んでおられません。イエス様は弟子たちを「小さなもの」と言われました。弟子たちは小さなものなのです。そしてイエス様は、「弟子のひとりに冷たい水いっぱいでも飲ませてくれる人は、必ずその報いを受ける」と言われました。弟子たちは神様に信頼して歩むからと言って、誰の助けも必要としない偉大な人ではないのです。弟子たちはイエス様を受け入れた人々からの助けが必要です。小さな者だからです。弟子たちも失敗し、また疲れます。弱さや未熟さのゆえにいろんなところで頭をぶつけます。イエス様を裏切ってしまう、自分を責めて心離れてしまう弟子もいました。人々は、神様の恵みのことばを語る大切な使命に生きる弟子たちを支えました。弟子たちは大きな使命を小さなものとして担っているのです。

現実に失敗を責め続けられて働きを続けることができなくなった働き人がいます。経済的に立ち行かなくなって働きをやめなければならなかった働き人がいます。霊的な試練のなかで助けをうけることがなかった働き人もいます。働き人は小さなものです。イエス様を受け入れた人々には、小さなものに水いっぱいでも飲ませてさしあげる、そんな支える心が問われます。

世界には何が必要でしょうか。イエス様がマタイによる福音書9章36節で人々の有様をご覧になって、人々は「飼い主のない羊のように弱りはて、打ちひしがれている」と言われました。あなたも世界をそのようにご覧になっていますか。神様の愛を知らず、努力と運に頼って生きるしかない人々、疲れている人々、不平と不満にまみれている人々、わがままと遠慮の間を行き来している人々、まことに飼い主のない羊が弱りはて、打ちひしがれている姿に重なります。

イエス様は弟子たちに「収穫は多いが働き手が少ない」とチャレンジされました。生涯をかけてイエス様のメッセージを語る働き手が少ないのです。しかし、続く9章38節では「だから収穫のために働き手を送ってくださるよう、収穫の主に願いなさい」という言われました。あなたにも、収穫の主に祈るよう、と言われます。周りの状況が整うことを待たず、あなたが収穫の主に祈るよう、とイエス様はおっしゃるのです。働き人として召されている人はいませんか？ 険しい道ですが、神様は神様だけを信頼できるお方とする信仰の訓練をしてくだ

さいます。働き人を支え、水を一杯さしだす働きに召されている人は誰ですか？支えるために必要な心や資源を神様は豊かに与えてくださいます。

神様はそのようにして、弟子を導き、また弟子たちがイエス様を受け入れた人々によって支えられて働くようになさいました。あなたは今日のみ言葉をどのようにお聞きになるでしょうか。

人知をはるかに超えた神様の平安が、あなたの心と思いを守ってくださいます。アーメン。

### **讚美歌：333番 献金 献金感謝の祈り**

- |                    |                          |
|--------------------|--------------------------|
| 1. 主よ、われをば とらえたまえ、 | さらばわが霊は 解き放たれん。          |
| わがやいばを くだきたまえ、     | さらばわが仇に 打勝つを えん。         |
| 2. わがころは さだかならず、   | 吹く風のごとく たえずかわる。          |
| 主よ、御手もて ひかせたまえ、    | さらば直きみち ふみゆくを えん。        |
| 3. わがちからは よわく乏し、   | 暗きにさまよい 道になやむ。           |
| あまつ風を おくりたまえ、      | さらば愛の火は 内にぞ 燃えん。         |
| 4. わがすべては 主のものなり、  | 主はわが喜び、 また幸なり。           |
| 主よ、みたまを 満たしたまえ     | さらば永遠(とこしえ)の 安きを受けん。アーメン |

### **主の祈り**

天にましますわれらの父よ、願わくはみ名をあがめさせたまえ。みくにを来たらせたまえ。みこころの天になるごとく地にもならせたまえ。われらの日用の糧を今日も与えたまえ。われらに罪をおかす者をわれらが赦すごとく、われらの罪をもゆるしたまえ。われらを試みにあわせず、悪より救い出したまえ。国と力と栄えとは、限りなくなんじのものなればなり。アーメン。

### **頌栄：讚美歌 541番**

父、御子、御霊の大御神に、ときわにたえせず、み栄えあれ、み栄えあれ。アーメン

### **祝福の言葉**

仰ぎこいねがわくは、私たちの主、イエス・キリストの恵み、父なる神の愛、聖霊の親しきお交わりが、御前に集う一同とともに、今日も、この一週間も、いく久しくとこしえまでも、豊かにありますように。アーメン。

### **後奏**